2023年10月1日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

そして神様は人となった

［イザヤ書3章8節～15節］

エルサレムはよろめき、ユダは倒れた。彼らは舌と行いをもって主に敵対し／その栄光のまなざしに逆らった。  
 彼らの表情が既に証言している。ソドムのような彼らの罪を表して、隠さない。災いだ、彼らは悪の報いを受ける。  
 しかし言え、主に従う人は幸い、と。彼らは自分の行いの実を食べることができる。  
 主に逆らう悪人は災いだ。彼らはその手の業に応じて報いを受ける。  
 わたしの民は、幼子に追い使われ／女に支配されている。わたしの民よ／お前たちを導く者は、迷わせる者で／行くべき道を乱す。  
 主は争うために構え／民を裁くために立たれる。  
 主は裁きに臨まれる／民の長老、支配者らに対して。「お前たちはわたしのぶどう畑を食い尽くし／貧しい者から奪って家を満たした。  
 何故、お前たちはわたしの民を打ち砕き／貧しい者の顔を臼でひきつぶしたのか」と／主なる万軍の神は言われる。

[1]　「聖書」という書物は

「聖書」というものは、一般的には、どういう書物だと捉えられていることが多いのでしょうか。もしかすると、それを「神様の言葉」が記されている書物だと捉えている人は少ないかもしれないと思います。そういう意味合いよりもむしろ、含蓄のある言葉・良い言葉が沢山記されている、人生に役立つ書物と考えている者が多いのではないかと思うのです。しかし聖書は、処世訓を連ねた書物ではありませんよね。勿論、良い言葉、印象深い言葉は沢山散りばめられていますけれども、これ（聖書）は、神様と人間との間のドラマ・物語を記した信仰の書物だと言えると思います。ですから、必ずしも耳に心地良い言葉だけではなく、その逆、あまり聞きたくないような言葉、また記述もある訳です。しかし、それは当然だと言えると思います。私たちの人生の歴史にも「光」の部分もあれば「闇」の部分もあるように、聖書も、何か理想や夢を語っているのではなくて、神様との関わりにおける、あるがままの出来事を記している書物なのですから。

[2] そんな言葉は聞きたくない？

今日から11月の終わりまで、特別な週を除いては、旧約聖書の「イザヤ書」を読んでいきます。イザヤ書は40章以降に出て来る、バビロン捕囚以降の「回復の預言」の箇所がよく読まれると思いますが、今回の『聖書教育』誌では、今月は初めの方に出てくる「さばきの言葉（預言）」も取り上げられています。先ほど読んで頂きましたのは3章の中からですが、普段はあまり読まないような部分だと思います。この歴史背景としては簡潔に申しますとイスラエルのユダ王国が不信仰に陥り、国力も衰退していくのですが、その回復を神様に立ち帰ることで出直すということよりも、この世的に大国アッシリアの力に頼ろうとして、シリヤ･エフライム軍に攻められ、国内では指導者が殺されたり、捕虜になったり、無力な無政府状態になっている、そういう状況でした。3章1～4節にはこのように語られています。―「見よ、主なる万軍の神は／支えとなり、頼みとなる者を／また、パンによる支え、水による支えをも／エルサレムとユダから取り去られる。勇士と戦士、裁きを行う者と預言者／占い師と長老／五十人の長と尊敬される者／参議、魔術師、呪術師などを取り去られる。わたしは若者を支配者にした。気ままな者が国を治めるようになる。民は隣人どうしで虐げ合う。…」

国家存亡のかなり危機的な状況です。しかし、私はこういう“厳しい言葉”が聖書にきちんと記されているということは、今を生きる私たちの信仰にとってとても大切なことだと思います。これは主なる神様のさばきの言葉であり、警告です。人間というのは、いえ、私たち自身や私自身は、厳しい言葉というのは聞くことを避けようとします。そんな言葉を聞くことは、心を萎えさせるだけ、自虐的だと言えるかもしれません。しかし、どうなのでしょう、聞こうとしないことの方が、心がビクビクしているというか、あるがままを認められない勇気の無い者ということにならないでしょうか？　そして思ったのですが、現代の中で、「神様とのやり取り」ということを考えてみる時、今はコンピューター（PC）が日常的に使われているのが普通になってきて、コンピューターと対話することが、神様との対話にとって代わってしまう所まで来ているようにも思うのです。

「チャットGPT」という生成AIが急激に入り込んできています。これは、文章である問いを出すと、それにまるで生きた人間のように文章で返してくれるシステムです。それは膨大なデータに基づく学習をしていますから、用い方によってはとても便利なサービスになります。しかし、これがどんどん普及することに警鐘を鳴らす人たち、専門家も少なくありません。東大教授で言語脳科学者の酒井邦嘉教授という方のインタビュー記事でこのようなことが書かれてありました。

**「チャットGPTとのやりとりは、（対話的ではあっても）「対話」と呼べるものではありません。チャットGPTの回答を「ご託宣」の、ようにとらえてしてしまうと、一方的に帰依してしまう恐れがあります。それはちょうど、ドラえもんに頼りきりの「のび太」のようです。ドラえもんは教育的なので、時には突き放したり叱咤激励したりしてくれますが、チャットボットですと、容易に泥沼化します」**と。**―**酒井教授はまた、チャットGPTの答えの文章は文字列に過ぎないものだと言っています。AIに、思考とか戸惑いは無いのです。また、人間はそれを使うことによって、ある種の自己肯定感を得ることが出来るとも言います。“自分に都合の良い情報を収集してくれる”装置なので、まるでイエスマンを周りに置く権力者のように、言いなりのものだけを可愛がってゆく危険性は十分にあると仰います。つまりこの装置は、耳障りが良いのです。何しろアッという間に、欲しい文章が手に入る。教会の説教者は不要になるかもしれないのです。

しかし、皆さん、神様は私たちの“予測の範疇”には無いお方です！予定調和の神様、耳障りの良い言葉だけを提供してくれる神様は死んでいます。生きている神様は、私たちを裁くのです！叱るのです、私たちの有り様、信仰の有り様を。

もしかしたら私たちは―可笑しな言い方ですが―いつの間にか、神様に「慣れっこ」になってしまっているかもしれません。緊張感がなくなってくると言いますか。

神様がイザヤに告げた預言は、言ってみれば神様の前に緊張感を持て、と言っている言葉とも言えるのではないでしょうか。神様は3章の12節以下でもイスラエルの民に問うておられます。―「主は争うために構え／民を裁くために立たれる。主は裁きに臨まれる／民の長老、支配者らに対して。「お前たちはわたしのぶどう畑を食い尽くし／貧しい者から奪って家を満たした。何故、お前たちはわたしの民を打ち砕き／貧しい者の顔を臼でひきつぶしたのか」と／主なる万軍の神は言われる。」

主は「お前たちはわたしのぶどう畑を食い尽くし…」と嘆いています。イスラエルは、神様が大切に大切にしている、実がなるぶどう畑なのだ。それをあなた方権力者は、わが物顔で食い潰してしまったね、一体どういうことか!?と、神様は激しく臨んでいるのです。神様は、私たちの行いに目を瞑る方ではないのですね、黙っていないのです。しかし、この「黙っていない」というのは、愛ですよね。「愛」の反対語は「怒り」ではなく、「無関心」なのですから。「言葉」をかけて頂けるというのは、神様が、ご自分のぶどう畑イスラエルを捨てきっていない証拠です。私たちもそうです。神様は黙っておられない。もし私たちに神様の言葉が聞こえないのなら、それは聞こうとしないからです。私たち、神様を都合の良いコンピューターにしてはいないでしょうか？人格なき機械にしてはいないでしょうか？

[3]　イエス・キリストは、「神様の思い」そのもの

そんな、神様に背を向ける、神様に聞こうとしない私たちに、神様は最終手段を下されました。主イエス・キリストをこの地上に遣わされました。ヘブライの信徒への手紙の冒頭には、神様はこれまで様々な預言者を通して語ってこられたけれど、この終わりの時には、御子（イエス）によって語られた、と書かれています。そうです、神様が人間になられたということは、神様の最終的・決定的メッセージです。私たちが不信仰なことを神様はよくご存じです。しかし、神様にとって私たちの存在は、良きぶどう畑なんです。私たちの中に美味しい果実を見出したいのです。だから、神様は愛することを諦めない。私たち人間と同じ“血と肉”

を備えた存在として、神の独り子イエス・キリストを、私たちのためにお送り下さいましたよね。私たちは、ここに、コンピューターではない、神様の「思い」を知ります。イエス様を見る時に、私たちは神様の愛が分かる。もしコンピューターだったらこんなとんでもないことはしないでしょう、主イエスは十字架の上で、肉を裂き、血を流されることによって、私たちの裁きを身に引き受け、神様につながる道を回復して下さったのです！

私たちは、このイエスに繋がっていないと、またすぐに自分自身を神にしてしまいます。或いは、他人に依存してしまいます。モノに依存してしまいます。そういう弱い者であることを自覚するからこそ、私たちはこうやって共に御言葉に、主イエスご自身に、一週間の始まりの日に帰って行くのです。厳しい言葉を語りかけて下さる時、それを聖書から聞く時こそ、神様は私たちに近いのかもしれませんね。お祈り致します。

主なる神様、新しい月を迎えて、ご一緒にあなたの前にもう一度出ることが出来て感謝を致します。私たちは、ともするとあなたに慣れっこになってしまったり、恵みを恵みとして感じることが薄くなってしまう自己中心で不信仰な者です。しかし、だからこそ、あなたは聖書を通し、主イエス様を、聖霊を通して新しく示して下さいます。このあと行われる主の晩餐式もそうです。どうぞ、私の身代わりに裁きを受けて下さった御子イエス様と新しく出会い続ける私たちとして下さい。主の御名によってお祈り致します。アーメン。